

スポーツ・コンベンションセンター基本構想の概要

令和5年10月
鹿児島県

1 現状

- 県総合体育センター体育館（以下、「現体育館」という。）は、体育振興を通じて県民の体格の向上、青少年の健全な育成を期するための場として、本県出身の飯野海運（株）元社長、故俣野健輔氏が私財を投じ、昭和35年（1960年）に竣工

○競技スペース：1,320㎡（バスケットボールコート：2面） ○観客席：1,739席
○最大収容人数：4,400人

2 課題

- 現体育館は、築後60年以上が経過、耐震性には問題はないものの、必要な補修等を行いながら機能を維持
- 一定規模以上の競技大会の開催等には狭隘であり、現在多くの屋内競技の県大会等において、複数会場での分散開催や夜間に及ぶ大会運営を強いられている
- 全国・国際大会の誘致にも支障が生じている

十数年間にわたり、県政の重要課題として検討がなされてきたが、検討のプロセス等に対し、様々な御意見があり、その整備に至っていない状況

場所ありきではなく、まずは、施設の機能、規模、構成等について専門的・客観的な見地から検討を行った上で、整備候補地について検討することが必要であると考え、令和2年10月に県内外の各分野の専門家で構成する「総合体育館基本構想検討委員会」を設置

2. 施設のコンセプト

現状・課題

(現体育館の現状・課題)

- 現体育館は、築後60年以上経過し、老朽化が進んでいる。
- 全国・国際大会レベルの競技大会の開催には狭隘である。

⇒ 県大会等のスポーツ大会が各市町村立体育館で分散開催されており、効率的な大会運営ができていない。全国・国際大会の誘致に支障が生じている。

需要予測調査結果

- 施設の利用割合は、メインアリーナでスポーツ利用が概ね76%～87%、多目的利用が概ね13%～24%

⇒ スポーツ利用が約8割となっており、その中でも県大会等のスポーツ大会が半分以上を占めている。

<メインアリーナの利用割合>

利用形態		利用日数	多目的利用 13~24%	
スポーツ利用	県大会	125~137日	その他イベント 7~9%	↑
	全国大会等	14~16日	コンサート 7~15%	
	プロスポーツ	6~9日	プロスポーツ 2~3%	
	県民利用	100日	県民利用 30~35%	
	計	245~262日		
多目的利用	コンサート	20~48日	↑	スポーツ利用 76~87%
	その他イベント	20~28日		
	計	40~76日		
計		285~338日		

施設の機能

基本的な考え方

現体育館の現状・課題や、需要予測調査結果を踏まえ、新総合体育館は、「**する**」スポーツをベースとした、**アスリートファーストの施設**とする。

スポーツ振興の拠点機能

○屋内スポーツ競技の中核的な施設（聖地）として、県大会をはじめとする各種大会の円滑な運営や、全国・国際大会の誘致が可能な施設とする。

一流のスポーツイベントに触れる機会を創出するほか、サステナビリティの視点から「みる」スポーツにも対応できる施設とする。

○スポーツ科学の研究・提供機能、スポーツ情報発信機能、スポーツ関係者の交流・ネットワーク拠点機能など、本県のスポーツ振興を「ささえる」人材を育成する施設とする。

このことにより、

- ①競技力の向上や競技人口の増加を図る。
- ②県民、とりわけ将来を担う鹿児島子ども達に良質なスポーツ環境の提供を図る。



多目的利用による交流拠点機能

○上記のとおり、スポーツ振興の拠点機能を軸とするが、これに加え、コンサート・イベント等の開催を通じ、スポーツをする人もしない人も、また、様々な年代の人々が交流できる施設とする。

このことにより、

賑わいの創出や経済波及効果など地域活性化とともに、施設の収益性にも寄与する。



2. 施設のコンセプト

大まかな施設の規模・構成

施設の規模・構成の考え方

- 「する」スポーツに適した施設構成として、**メイン：バスケット4面、サブ：バスケット2面、武道場：柔剣道4面、弓道場**を想定
- 「みる」・「ささえる」スポーツにも対応するため、**関係者控室やメディア対応・会議などフレキシブルに活用可能な諸室を充実**
- 観客席（最大収容人数）**については、将来的な国際大会等の誘致を見据えるとともに、コンサート需要を踏まえ、**8千席程度**を想定

各施設構成ごとの概要

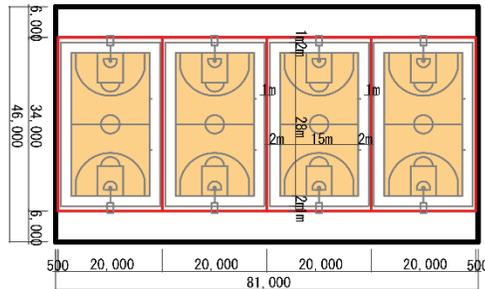
競技フロアや観客席，諸室等については，需要予測調査のほか，大会の運営状況や各種基準等を踏まえ，必要最小限の規模を記載。これらは，施設のレイアウトを検討する段階で具体的に検討

検討に当たっての視点

- 選手，観戦者などあらゆる利用者にとって快適な環境づくり
- 最先端の情報ネットワーク環境や映像・音響装置など，施設の付加価値を高める設備の検討
- 施設の財政的な持続可能性にも寄与する機能の担保
- 障害者や高齢者を含む全ての利用者が公平に使用できるよう配慮
- 他県施設との差別化や「みる」スポーツの視点から，競技スペース以外の部分（ホワイエ，飲食スペース等）や諸室・空間の環境整備等にも配慮

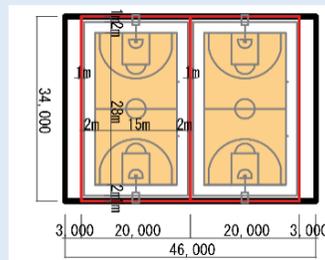
メインアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート4面
フロアサイズ：3,726㎡以上
- 観客席（最大収容人数）：8千席程度



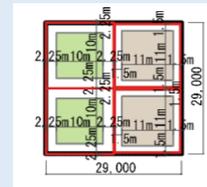
サブアリーナ

- 競技フロア：バスケットボールコート2面
フロアサイズ：1,564㎡以上
- 観客席：500席程度



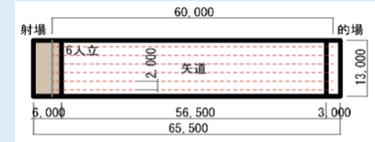
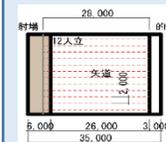
武道場

- 競技フロア：柔剣道場各2面（計4面）
フロアサイズ：841㎡以上
- 観客席：400席程度



弓道場

- 近的12人立，遠的6人立
- 観客席：近的・遠的双方に150席程度



諸室

- 器具庫，更衣室，会議室，VIP室，トレーニング室，多目的室等
- 必要面積：5,355㎡以上

3. 整備予定地の選定

- 施設のコンセプトに示された機能を最大限に発揮させる観点から、その立地条件について検討

○離島や大隅地域をはじめ県土全域からの交通利便性 ○宿泊・商業施設の集積状況 などを踏まえ

→ 鹿児島市に立地することが望ましい

- 鹿児島市内において、概ね1万5千平方メートル以上の土地を対象に調査を実施

○県有地 ⇒ 未利用地をリストアップ

○市有地 ⇒ 譲渡可能な土地について照会を行った結果、1箇所該当あり

○国有地、民有地 ⇒ 譲渡可能な土地について照会を行った結果、該当なし

・このほか、県議会や知事へのたより等を通じて、これまでに様々な御提案をいただいていた土地については、必要な面積を確保できないことや所有者に譲渡意思がないことなどを確認し、候補地として適さないと判断

→ 5箇所の整備候補地を選定

鴨池ニュータウン9・10号街区、県農業試験場跡地、住吉町15番街区、ドルフィンポート跡地、市脇田処理場等跡地

- 専門のコンサルタントを活用して設定した12の評価項目に基づき評価

○ アスリートファースト ⇒ ①交通利便性 ②宿泊施設の集積 ③商業施設の集積 ④既存スポーツ施設との連携

○ 経済波及効果・収益性 ⇒ ⑤経済波及効果 ⑥施設の収益性

○ 安心・安全 ⇒ ⑦防災上の課題 ⑧周辺住宅への影響

○ 実現可能性 ⇒ ⑨敷地面積の確保 ⑩法令への適合性 ⑪周辺道路の状況 ⑫費用面での留意点

○交通利便性に優れ周辺に宿泊・商業施設が多く利便性が高いこと

○中心市街地との回遊性等による経済波及効果が期待できること etc.

この結果を踏まえ検討

本港区エリア全体のまちづくりや中心市街地との回遊性、他の事業との関連も考慮し、新総合体育館の整備予定地については鹿児島港本港区エリア（以下、「本港区エリア」という。）の本港新町5-4ほか（以下、「ドルフィンポート跡地」という。）と住吉町15番街区を一体的なエリアとして選定

4. 整備予定地の概要

- 本事業が行われる**本港区エリア**は、桜島の自然景観や歴史、文化に恵まれたエリア
 - 桜島フェリーをはじめとした海の玄関口であるとともに、JR鹿児島中央駅から車で約10分、天文館から徒歩圏内であるなど、県内外からアクセスしやすい環境
- 整備予定地は①**ドルフィンポート跡地（施設本体）** 及び ②**住吉町15番街区（駐車場）** ※
- 敷地面積は①30,855㎡ ②約24,800㎡

※②住吉町15番街区を整備予定地としている駐車場については、「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」の検討結果によっては、本施設周辺の県営駐車場の収容台数の増により機能代替を検討する。



5. 土地利用・配置計画（イメージ）

※以下の配置計画等は基本構想策定段階でのイメージであり、今後、基本設計等において具体的に検討。

- 施設本体は、住吉町15番街区との一体的利用や、朝日通りやマイアミ通りなど市街地からの桜島の眺望を確保する観点から、ドルフィンポート跡地の南側に配置する。
- ドルフィンポート跡地の北側は、フリーマーケットなどのイベントや、キッチンカーなどにも対応でき、コンサート等の臨時駐車場としても使用できる多目的スペースとして活用する。

参考：土地利用・配置計画（イメージ）

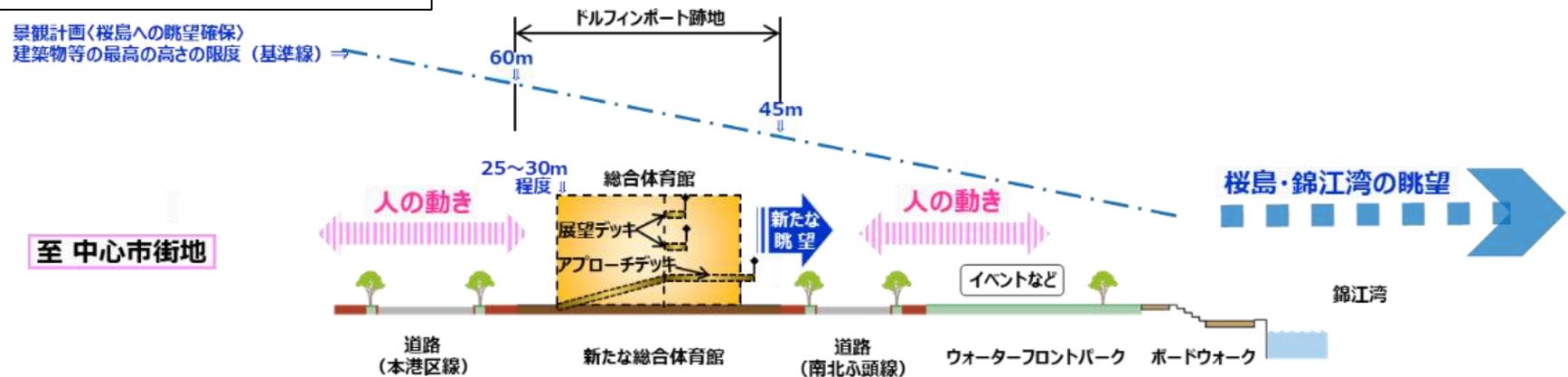


6. 断面計画・階層構成 (イメージ)

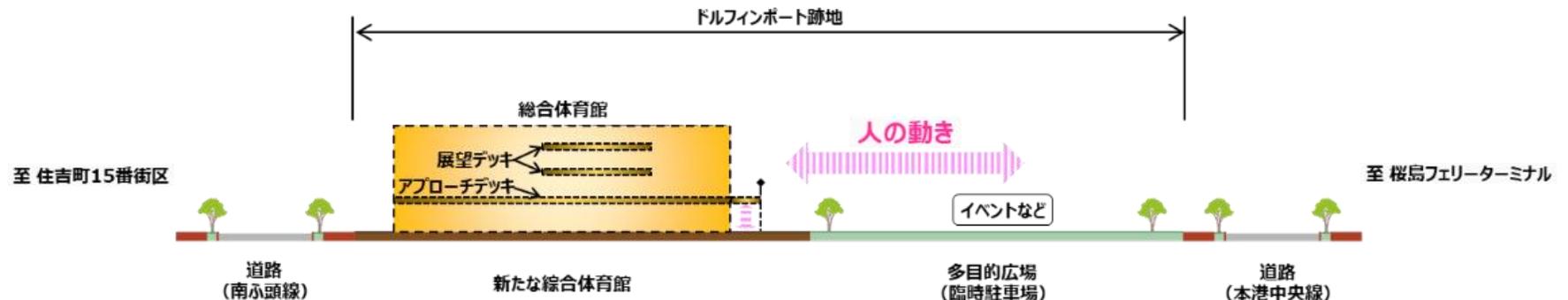
※以下の断面計画等は基本構想策定段階でのイメージであり、今後、基本設計等において具体的に検討。

- 施設本体の高さは、**景観計画に規定する建築物等の高さの限度内 (25~30m以内)**
- イベント開催時には、メインアリーナの観客席フロアである2階レベルが主な観客動線
- 屋外に2階レベルからの**アプローチデッキ**を計画し、人と車の動線や、観客と選手・V I P等の動線を分離
- **展望デッキ**を整備し、桜島や錦江湾の眺望を楽しめる新たな空間を創出

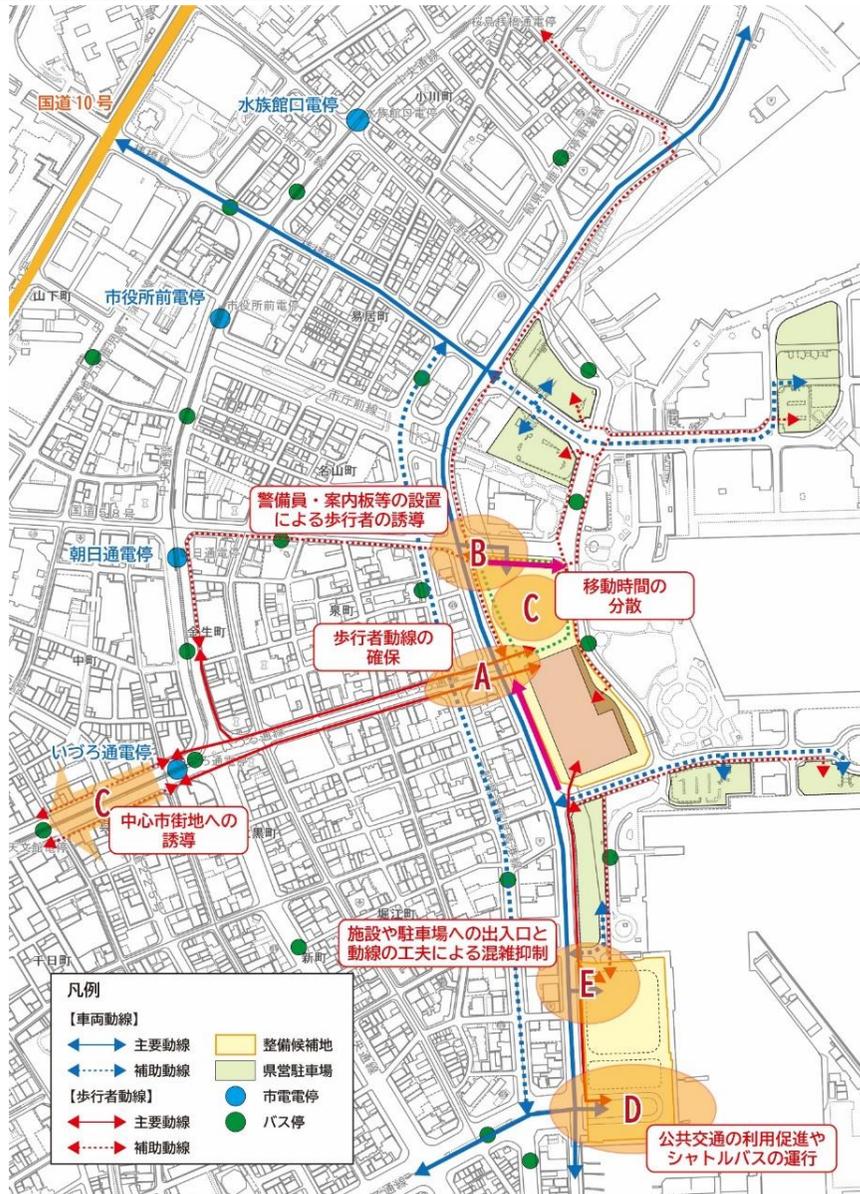
参考：断面イメージ (東西断面)



参考：断面イメージ (南北断面)



1 交通対策



2 駐車場

＜駐車場の台数＞

住吉町15番街区を整備予定地としている駐車場については、「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」の検討結果によっては、本施設周辺の県営駐車場の収容台数の増により機能代替を検討する。

項目	必要規模	利用の想定
一般駐車場	500台程度	・県大会等のスポーツ大会, コンサート・イベント等（住吉町15番街区へ）
バス駐車場	50台程度	（住吉町15番街区へ）
臨時駐車場	300台程度	（多目的広場を活用）
施設駐車場	100台程度	・県民や関係者等の日常利用 ・身体障害者用駐車場について必要台数を確保
計	普通車	900台程度
	バス	50台程度
		（バス駐車場を一般駐車場として利用した場合は、1,150台程度駐車可能）

(1) 鹿児島港本港区エリアにふさわしい施設整備

施設のコンセプトに基づいた整備を進めるほか、「鹿児島港本港区エリアまちづくりランドデザイン」に示されている景観や中心市街地との回遊性・融和性にも十分留意して整備に向けた検討を行う必要がある。

① 景観

本港区エリアは、錦江湾や桜島の良好な景観を有することから、今後の整備に当たっては、以下の点に配慮することとする

鹿児島市の景観条例に基づく景観計画において、城山展望台からの桜島の眺望を確保するため、建物の高さ制限が設けられていることから、これを遵守して検討を進める

イメージ ①

市街地からの桜島の眺望について、みなと大通りや朝日通り、マイアミ通り、パース通りなどからの眺望に留意して検討を進める

また、整備に向けての検討に当たっては、海から見た市街地などの景観にも留意する

イメージ ②, ③

スポーツ・コンベンションセンターの桜島側に隣接するウォーターフロントパークについては、現状のままとすることとし、これまでどおり、県民の憩いの場として、散策やウォーキングをしながら、また、スポーツや食事をしながら、錦江湾や桜島の眺望を楽しむことができる空間を確保する

また、隣地に整備する多目的広場については、ウォーターフロントパークとの一体的な景観に留意する

イメージ ④

スポーツ・コンベンションセンターの整備に当たっては、その施設のデザインなどが本港区エリアにふさわしいものであることや、新たに展望スペースなどを設置することにより、来場者が桜島や錦江湾の眺望を楽しめる新たな空間を創出する方向で検討を進める。

景観イメージ① <城山展望台からの桜島の眺望>



- 現在の景観とほとんど変わらない
- 景観計画による高さ制限には影響しない
スポーツ・コンベンションセンター 高さ 25～30m程度



景観イメージ③ <マイアミ通りからの桜島の眺望>



- 現在、桜島はほとんど見えない（裾野が若干見える程度）
- 整備後は、通りから南側の建物の背後に施設が見える
↓ スポーツ・コンベンションセンター



景観イメージ② <朝日通りからの桜島の眺望>



- 整備後も現在の眺望に変化なし



景観イメージ④ <敷地周囲からの鳥瞰イメージ図（上空から）>



※本ページの図は、施設の規模感等を示すために作成したもの。施設のデザインは、本港区エリアにふさわしいものとなるよう今後検討

(1) 鹿児島港本港区エリアにふさわしい施設整備

施設のコンセプトに基づいた整備を進めるほか、「鹿児島港本港区エリアまちづくりランドデザイン」に示されている景観や中心市街地との回遊性・融和性にも十分留意して整備に向けた検討を行う必要がある。

(2) 開かれた施設としての整備

- 近年、国等において、アリーナは、まちとの連続性を確保するとともに、周辺に質の高いオープンスペースを配置するなど、施設の外でも賑わいを創出することが望ましいとされており、最近整備されている類似施設においても、様々な人々が利用できる公共空間を施設内外に整備する事例がみられる



新潟県総合体育館



SAGAアリーナ



中心市街地との連続性を確保するとともに、様々な人々が利用できる公共空間を施設内外に整備することを検討

具体的には、多目的広場やアプローチ空間、エントランスや展望スペースなどを活用し、カフェやイベント等にも利用可能な交流スペースを設けることにより、スポーツ大会等の施設利用者のみならず、県民や観光客が気軽に立ち寄り、回遊できる開かれた施設としての整備を検討

(3) 中心市街地との回遊性・融和性

本港区エリアは、物販・飲食機能を持つ中心市街地と近接していることから、集客機能である新総合体育館の賑わいを中心市街地に波及させ、地域全体が発展するよう取り組む必要がある。

具体的には、回遊性を高めるための取組として、歩道など来場者の動線の確保や案内表示の充実、連携したイベント開催などのソフト対策などを今後検討する必要がある。

また、付帯施設等における民間活力の導入を検討する場合には、本港区エリアの立地を踏まえ、中心市街地との回遊性・融和性に十分留意する。

(4) 県民に愛され、県民の誇りとなる施設としての整備

スポーツ・コンベンションセンターについては、県民にとって屋内競技の中核をなし、子どもや青少年だけでなく、高齢者も、あらゆる世代の、また、障害者や県内各地の県民がスポーツに親しむとともに、アスリートにとって、ここから全国・世界に羽ばたいていくシンボリックな施設として整備に向けて取り組んでまいります。

また、それに加えてコンサート・イベント等を通じて、県内外からの来訪者で賑わい、感動を与える施設として、さらに、施設利用者だけでなく県民や観光客が気軽に立ち寄れる開かれた施設として、中心市街地との回遊性を高め、大きな経済波及効果をもたらす施設として、永年にわたり県民に親しまれ、誇りとなる施設となるよう、着実に取組を進めてまいります。

(2) まちづくりや他事業との関連

本港区エリアは、「鹿児島港本港区エリアまちづくりランドデザイン」において開発のコンセプトが示されており、ハイクラスホテルや集客施設の提案を条件とする事業者公募の開始が延期されているほか、本港区エリアの利活用の全体像を示すための「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」や本港区エリアにおける景観・デザインについての基本的な方向性を示すガイドラインの検討を行う「鹿児島港本港区エリア景観・デザイン調整会議」における検討が進められており、これらの取組との関連に十分留意して、整備に向けた検討を行う必要がある。

【参考：鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会の検討状況】
県HP：ホーム>社会基盤>港湾・空港>鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会

<https://www.pref.kagoshima.jp/ah15/honkoukurikatsuyoukentouiinkai.html>

【参考：鹿児島港本港区エリア景観・デザイン調整会議の検討状況】
県HP：ホーム>社会基盤>港湾・空港>県内の港湾>鹿児島港>鹿児島港本港区エリア景観・デザイン調整会議

<http://www.pref.kagoshima.jp/ah09/keikandezainkaigi/keikandezainkaigi1.html>

(3) ユニバーサルデザインへの配慮

障害者や高齢者を含む全ての方々が安全で利用しやすい施設を目指すこととする。

具体的には、今後、基本設計・実施設計の段階において、先進事例の対応状況も踏まえつつ、関係者等からの御意見も伺いながら、積極的に検討することとする。

(4) 地域資源（木材・石材等）の活用

県産材を活用した木質化の検討や本港区の石蔵で使用されたような石材の活用など、整備に当たっては、地域資源の活用により鹿児島らしさを感じられるような施設となるよう配慮する。

(5) 防災

県水害リスクマップ：ドルフィンポート跡地については敷地のごく一部が、住吉町15番街区については敷地の半分以上が0.5m未満の洪水浸水区域に含まれている。

市津波ハザードマップ：住吉町15番街区については敷地の一部（護岸）から半分程度が1m未満の津波浸水想定区域に含まれている。

ドルフィンポート跡地及び住吉町15番街区のいずれも、かさ上げ等の措置により、対応可能であることを確認している。

スポーツ・コンベンションセンターについては、災害発生時における対応施設としての活用も考えられることから、これら想定される災害に十分対応できるよう、整備に向けた検討を進める必要がある。

(6) 環境

① 周辺環境

スポーツ大会やコンサート等イベント開催時に多数の来場者が想定されることから、準備・撤去時や入退場時（車両，人），イベント開催時，それぞれの場面における騒音等の周辺住宅などへの影響について，十分配慮する必要がある。

② 自然環境への配慮

様々な再生可能エネルギーの活用や省エネルギー性に優れた設備の導入など，環境面にも配慮しながら整備に向けた検討を進める必要がある。

(7) 快適性

整備に向けた検討に当たっては，観客，競技者，大会運営者，それぞれの立場における快適性に配慮する必要がある。

観客の立場

フロアが見やすい観客席の整備や，最先端の情報ネットワーク環境・映像・音響の導入，イベント時の滞留空間だけでなく飲食等にも対応できるエントランス・ホワイエ等の整備について検討する。
また，ホスピタリティの観点から飲食にも対応したVIP室・VIPラウンジの整備についても検討する。

競技者の立場

各競技の実施に適した照明・空調の整備や，更衣室の質の確保，円滑な大会運営に資する関係者動線等の整備について検討する。

大会運営者の立場

搬入搬出時の出入り口・搬入スペースの確保やトラックでの直接搬入，電源設備等の充実，メディアやVIP対応等の関係者諸室の充実等について検討する。

(8) 施設の持続可能性

現在想定している利用者数（約40万人）については，主な利用形態である県大会，全国大会等のスポーツ利用，コンサート・イベント等の多目的利用を想定したものであり，今後，想定している以上のイベントや大会誘致が実現できるよう，プロモーター等への戦略的なPRなどに取り組む必要がある。

また，本港区エリアの立地を活かし，施設利用者のみならず，県民や観光客が気軽に立ち寄り，回遊できる仕組みを検討することにより，利用者の増加を図る必要がある。

(9) 関係者との連携

整備に当たっては，施設の主な利用者である屋内スポーツ競技団体や鹿児島市をはじめ，関係機関・団体と緊密な連携を図りながら検討を進める必要がある。

また，既存のスポーツ施設との連携・役割分担についても検討を進める必要がある。